

Cast

佐々木 空
若松 百合香
光来出 康

Staff

演出 / 古賀 陽子
音響 / 前田 留里
照明 / 坂本 浩紀
照明補佐 / 新垣 元梓
舞台美術 / 光来出 康
宣伝美術 / 佐々木 空
制作 / 古賀 陽子

F-Stage Member's Support

豊住 季実枝 加藤 英明 武田 美奈子
上野 大貴 柳 明日香
泉 翔太 小柳 満紀 白川 あや
土肥 未夏 米田 竜規

Other Members

前田 英太郎 岩瀬 遼 長谷川 義文

Special Thanks

九州情報大学教職員の皆様
太宰府天満宮参道及び小鳥居商店街ほか
ポスターを貼ってくださったお店の皆様

F-Stageのホームページ

<http://www.ekiis.com/~F-Stage/>

福岡県太宰府市宰府 6-3-1

Tel : 080-5267-2424 Mail : f-stage@hotmail.co.jp

次回公演

作・若松百合香

トマトはアオイ



紫苑祭公演

11月10日(土)
11日(日)

九州情報大学
太宰府キャンパス
1号館 303 教室



まほろば公演

12月9日(日)

太宰府館
3F
まほろばホール

お知らせ

10月開催の
福岡地区六大学演劇部合同公演に、
我がF-Stageの
柳 明日香(出演)と
前田 留里(スタッフ)
が参加します。



作：高橋いさを+小田玲奈

アロハ色のヒーロー

演出：広瀬健太郎

10月11日(木)～14日(日)

ぼんプラザホール

※上記いずれも、詳細は、
F-Stage ホームページにてお知らせします。

2007 / 九州情報大学演劇部 F-Stage

九州情報大学 演劇部 F-Stage 第9回公演

by チームNeST act.1



佐々木 空



若松百合香



光来出 康

トランス

作・鴻上尚史
演出・古賀陽子

事実は存在しない。ただ、解釈だけが存在する。

【日時】 8月19日(日)

① 13:30 開演

② 16:30 開演

【場所】 九州情報大学太宰府キャンパス1号館303教室



-ご挨拶-

F-Stage第9回公演「トランス」by チームNest act.1 にご来場いただきありがとうございます。

この「トランス」という舞台は、全国各地でこれまでに1000回以上も上演されているそうです。私たちがなぜ数ある脚本の中で、この脚本を選んだのか。まず役者の人数が合っていた、というのがありますが、今まで自分が感じていた、でも決して口に出すことが出来なかったことの多くが、言葉としてそして言葉にならない言葉として表現・内包されており、何よりもこの芝居をやることで、それらを表わすことができるかもしれないと感じたからです。

この舞台は男二人・女一人で構成されています。一人は自分の居場所を探し、一人は本当の愛を求め、一人は自分が本当は何がしたいのか思い悩むあまり心を病んでしまいます。

紅谷の台詞に「正常と異常を分けることは難しい」といったものがあります。

一見彼らは気が狂ってしまった“普通の人”とは違うようにも思えます。しかし彼らのもつ悩みは、私たちとそれほど変わらないのではないのでしょうか。テレビで取り上げられる昨今の「異常な犯罪者」たちも、もとをたどればその抱える悩みは、“普通の人”と呼ばれる私たちのそれとさほど変わらないように思えるのです。少なくともまったく異質な次元にそれら・彼らは在るのではなく、私たちの日常の延長線上にこそ彼らの苦悩の日常・非日常はあったのではないのでしょうか。私たちは、けっして語ることのない、語られることのない「言葉」(=行動)を日々裡に溜め込みながら終らない日常をただただ繰り返していかなければならない存在“なの”かもしれません。

この舞台の中に三人が高校生の頃のシーンがあります。この頃の彼らと、現在の彼ら。紅谷と後藤の言葉にあったように「いろいろ、あったようですが、基本的に彼らの関係は変わらないのです。

いや、変わらない・変わってはいないと、少なくとも彼らは「信じている」のです。「信じている」という彼らの中には、きっと彼らの「真実」が在るのであり、彼らの「妄想」はそこからはじまっているのかもしれない。

私の大切な人も心を病んでいました。その時、私は、彼の心を蝕んだものはなかったのか、どう付き合っていけばいいか、などを考え悩み、本を読んだこともありましたが、しかし、彼は彼なのです。子供のころ毎日一緒に遊んだ、彼と離れている間どんなことがあったとしても、彼が別人になってしまったわけではない。私は結局彼と今まで通りに付き合っていくと決めたのです。ただ、前より少しだけ、彼と連絡する回数が増えたのかもしれない。

演劇部のためだけに学校に通い、授業中に台本を覚えていた高校生だったころの私。そして今、仕事中にこの文章を書き、夕方から練習に向かう私。昔と違うことは、ちょっと歳をとったことと、ほんの少し人生経験を積んだおかげで鴻上さんの脚本の意味があのころよりは解るようになったことくらいでしょうか。

それでは、最後までごゆっくりと「トランス」をお楽しみください。

演出/古賀陽子



音響/前田留里

中学生の頃、ふっとした瞬間…何故か給食時間が多かつたんですが…急にそれが現実なのか？と疑っていました。本当にここは学校なのだろうか？食べてるものは本当に食料？目の前にいる人は本当にクラスメートなのか？とにかく全てを疑って答えがない真実探しをしました。例えばここは刑務所で、食料はスポンジの様なものを、何の疑いもなく食べている。そしてそれも妄想の世界で、私が観てるのは妄想の妄想の世界？とか何とか…(笑)今ある現実が妄想という妄想をよくしました…この文を書いている私こそが妄想なのかも…!!



照明/坂本浩紀

自分もしかしたら人外の能力を持っているんじゃないか。たとえばサイボーグだったりエネジェントスミスみたいな映画や漫画に出てくるヒーローとか…。
紛争地帯に行くと鎮圧したり未知の生物と戦ったり正義の味方みたいなことをしています。しかし、自分が日本人だということがばれると国に迷惑をかけるのいつばれるか心配しながら戦っています。
昔からドラゴンボールなどを読んでいたので人を超越したいなぁと淡い夢を抱いていました。
あーでも、気のコントロールはしてみたい。

何が《妄想》で、何が《真実》なのか!

立原雅人役/光来出 康

高校卒業以来会っていなかった友人三人組が、一人の「妄想」をきっかけに再会を果たす…

トランス



自分の本当にやりたいことを思い悩み、心を病んだ。立原

今の自分のまま、人生をやり直せたら…、という妄想。

今まで起きたブームの商品(たまごっち、ミニデト等)の発売年代や、競馬、ナンバーズなんかの番号を覚えて、初めに戻ったら、きっと大金持ちになって、もっとゴージャスになるんだ…

な～んで、思ってみたりするもの、やり直した先での様々なターニングポイントで、今までは別の選択をするだろうから、今と同じ人生にはならない訳で…。

そうすると結局またやり直したいなんて思うんだろうなあ。

妄想の先に平安はないようです。

紅谷礼子役/若松百合香

演劇の帰り。家のエレベーターに乗って6階のボタンを押した。私のマンションは7階建て。なのに8階にとまった。忍び忍び助けろ!! ドアが開くと熊本の祖父の家だった。私のマンションの8階は祖父の家だったのだ。次の日の朝、バイトなのに寝坊をしてしまった。急いでエレベーターに乗って1階を押した。すると今度は地下1階にとまった。ドアが開くと、バイト先だった。私のマンションの地下1階はバイト先だったのだ。バイト先だった。私のマンションの地下1階はバイト先だったのだ。行きたい場所や会いたい人のところに行くまで連れていってくれる。そんなエレベーターがうちにある。



自分の居場所を探し続けた「紅谷」

朝起きたら、僕はイケメンになって、お金持ちになって、頭の回転が早くなって…これは僕がよく考えること、いや、毎日考えてるんだけどやっぱりうまくいかない。

なんでもうまくいかないもんだね。

毎日そんなこと考えてる僕はクータラですよ。

だがしかし、そんな僕も20歳、

現実と闘っていかなくちゃならんです!

3年後僕はなにをしてんだ?

きっと、めっちゃめっちゃバババ、仕事してるって

(きっとそうだって…)

ああ、願ってばかりの僕は駄目な人間ですか?

…はい、駄目な人間です…

後藤参三役/佐々木 空

愛したものに裏切られてきた「後藤」

